

令和4年度第2回市川町総合戦略会議録

会議名	第2回市川町総合戦略会議
開催日時	令和5年3月2日(木) 10時00分～12時00分
開催場所	市川町役場4階 相談室
出席者	委員：小野康裕、多田正樹、石田勝則、村上和男、北尾政憲、長尾克洋、 村田敏朗、岩木和子、木村重己、石川伸也、小西正弘、吉田花梨 町 長：岩見町長、藤原副町長、内藤企画政策課長、近藤地域振興課長、 藤後課長補佐、柴田主事
会議の議題	1 開会 2 あいさつ 委嘱書交付 3 協議 (1) 人口ビジョンの見直しについて (2) 令和4年度実施事業進捗状況及び令和5年度事業計画について 4 閉会
会議資料	【事前配布分】 ・会議次第 ・市川町総合戦略進捗管理シート ・市川町人口ビジョン概要版 【当日配布分】 ・座席表 ・前回の人口ビジョンの概要版 ・鶴居中学校跡地の航空写真
協議	(1) 人口ビジョンの見直しについて 事務局より説明
委員長	この件に関して皆さんからご意見ご質問を賜りたい。
委員	最後のページで、「合計特殊出生率が2040年に1.7、2060年に1.9に上昇と仮定し、移動を5割抑制」とあるが、これは自然増減の方の移動を5割にしたらという意味か？
事務局	合計特殊出生率を上げて出生の数を増やす自然増減と、転入転出で転出を減らして転入を増やす社会増減の両方の面からこの目標設定をしている。
委員	了解した。ここで特殊出生率という言葉表記はあるが、それぞれの年に特殊出生率を書いていた方がわかりやすいと思う。目標はこうしていたが実際はここまでいかなかった、ということが比較できるので、施策の成果を評価できる上でもいいのではないか。
企画政策課長	最後のページの表に、5年単位になるが、特殊出生率の目標は入れていきたいと思う。
委員	今現在の合計特殊出生率はいくらか。
事務局	令和2年の国勢調査の時点では1.03。
委員	関連して、出生率を1.9に置いている根拠を聞きたい。統計的にはずっと

企画政策課長	<p>下がっている中で、なぜこの数値にしたのか。現実的な数値を置かないと政策には直接結びつかないのかなと思うが。</p> <p>前回の人口ビジョンでは2.0で設定している。今回の国調では1.03ということで、現状とはだいぶかけ離れておりもっと下げるべきだとは思いますが、人口5,000人以上の確保を目指したいと思っている。それに合わせて逆算したシミュレーションで出した数字になる。</p>
委員長 副町長	<p>希望に基づいて出した数値ということ。裏打ちはなく。</p> <p>なかなか裏打ちになる根拠はないが、少なくともこの人口5,000人以上を目指した戦略で、どれだけ成果が上がるかというのが問題。戦略自体も今後見直ししながら、この5,000人以上を目指していく。ある程度希望的なところがあるのは否めないところ。</p>
委員長 副町長	<p>正直なところをお聞きしたいが、5,000人規模で自治体として成り立つのかどうかの疑問がある。これはどうか。</p> <p>自治体として成り立つかどうかということについては、小さいながらもそういう政策はあると思っている。実際に非常に少ない人口の自治体もあるわけで、いろんな条件等々あるが、5,000人規模で町民の皆さん方に安全安心に生活していただける政策が必要であり、それを目指していく。</p>
委員長	<p>全国的に同じようなところはあるが、町民になるのか、村民になるのか、この辺の判断はどこの数字なのか気になる。いろんな施策を講じながら、何とか5,000人規模を保ちたいという上での戦略会議と捉える。</p>
委員	<p>人口減少に対して注目されているのが出生率、もう一方で結婚しない人たちの数が非常に多い。ここに何か手を打つべきではないか。私の家の近辺でも多い。</p>
委員長 企画政策課長	<p>それに関して事務局で何か。</p> <p>第1期の戦略では婚活の施策は入れていたが、第2期の戦略では外している。それは、結局成果が上がらなかったということと、市川町単独でもどうしても無理があるということで、中播磨単位や県など広域での事業を活用していくということで外した経緯がある。やはり出生率を上げるためにはこういうのも必要となってくるので、今後も考えていきたい。</p>
委員長	<p>もう婚活というような名前では、若い人たちは集まってこない。今は交流アプリ。アプリもたくさん出回っていて、婚活という名前自体がもう無理かなという気がする。頭を切り替えないと難しいだろうし、これはなかなか踏み入りにくい分野だとは思いますが。</p>
委員	<p>それに関連して、私は2年前に引っ越しをしてきて、今年初めて秋祭りに参加して、こんなに若い人がいるということを初めて実感した。どんな形でもいいので、自治体だけではなく民間の人が、若い人が交流できる場を作っていく方が、人が集まって繋がって、さらに恋愛に発展するかもしれないと思う。</p>
委員長	<p>私が村田さんと一緒にしている「なごやか甘地」でも、駅前ビアガーデンをしていると若い方が大勢いる。その中で結婚された方もいるし大事であると思う。支援の事業もあるので、そういったものを活用してでもしてい</p>

委員	<p>ただけるような場を作るのは一番大事かなと思う。集まる場所は、どうしても近くであれば福崎や姫路、神戸となってしまう。うまく行政側が導く必要はあるだろうと思う。</p> <p>若い人の出会いがないわけではないと思う。催しとかSNSとかいろいろあると思うが、結婚しない理由は他にあるだろうと。そこを考える必要があると思う。</p>
委員長	<p>他に何か。私は見開きの右側の4地区ごとのグラフで、鶴居地区が激減しているのが気になる。理由として何か考えられることはあるか。メイン通りということもないが、瀬加のような谷筋でもない中で、人口減少が激しいのは一体何が原因なのか気になる。</p>
事務局	<p>鶴居校区で子どもの減少が大きいということは教育委員会でも懸念していた。市川町全体と比較すると、鶴居地区はお店が少ないと思う。住宅を建てようという民間業者が入ってくることもなく、狭い道が多い印象はある。</p>
委員長	<p>はっきりした理由はなかなか掴みにくいと思う。単純に思うのは、元々鶴居駅は神河町の福本の辺りの人も乗られる駅だったが、ほとんどが新野に取られているということもあるし、買い物も北向きということもある。鶴居地区の減り方は、今後の市川町の中でキーポイントになってくるのではという気がする。</p>
委員	<p>自分自身は瀬加に住んでいるが、71歳の方が交通事故に遭われたという話を聞いて、自分自身も同じような年齢になりながら、近所の人と瀬加に高齢者は住めないなという話をした。お店はないし車は運転できないし、病院も松岡医院がいつまであるとか、皆が不安を感じながら生活している。出生率のことでは、今月は何人の子供が生まれているかな、と期待しながら広報の裏表紙をいつも見るが、令和4年は40名ほどだったと思う。近所でも、こども園の通園バスに乗っている子は1名。若い人たちが生活できる、高齢者も生活できる環境をどのように工夫しアイデアを出しながら作り上げればいいのか、ということ地域の人と話しながらつくづく感じる。</p> <p>鶴居でなぜ減少が激しいのか、確かにお店がないということが一番。子育て中の人たちに話を聞くと、子どもをこども園に預けて働きたいが、小さい子は結構病気をするので、迎えに行ったらすぐに帰れる環境が必要。今ベルヴィさんで、パートで働いておられる方が大勢いらっしゃる。働きやすい子育てしやすい職場も町内に多くあればと思う。</p>
委員長 委員	<p>(2) 令和4年度実施事業推進状況および令和5年度事業計画について 事務局より説明</p> <p>では、この進捗管理についてご質問ご意見を伺いたい。</p> <p>資料や説明から、市川町は移住定住対策やふるさと意識・郷土愛の醸成、また子育て支援などに重点を置かれているということがよく分かり、また目標や実績が対比でき、成果がわかりやすく示されていて、そのことは素</p>

	晴らしいと率直な感想として思った。
地域振興課長	9 番の農業体験教室等の開催について、有機農業教室の開催は笠形地域づくり協議会に委託されているのか？
委員	有機農業で 40 年ほど経験をお持ちの牛尾武博さんという方が市川町にいらっしやって、牛尾さんに講師をお願いして地域おこし協力隊が開催している。
地域振興課長	フォローアップについて聞きたい。受講した人で、こちらに就農とかその後に関わった人がおられるか。また、農的暮らしとか家庭菜園とかをする際にフォローをしているのかどうか、教えていただきたい。
委員	一つ目の移住に繋がっているかということについては、ほぼ繋がっていない。中には、牛尾さんのところに仕事として働きに来られている方もいらっしやるので、後々移住に繋がっている人もいるかもしれないが、全ての移住者を把握していないので。牛尾さんのところに働きに来られる方が家を探されているとか、市川町で有機を覚えて移住したいという方が中にはいらっしやる。そういう方については、市川町内の空き家を案内しているが、農業をされる方はそれほど収入が多いわけではないので、安い物件を探される方が大半で、実際に移住に繋げるのは難しい部分がある。
地域振興課長	就農に関わっていくのがベストだとは思いますが、それだけではなくて田舎暮らしに憧れる方もかなり多いのではないかと思います。そういう人たちに、農地付きの空き家を斡旋するというのをされているのか。
委員	はい、そういった方にも丁寧に対応させていただいている。地域振興課に直接空き家の問い合わせはないが、農地と一緒に空き家を取得される場合は農業委員会を通すのでこちらで把握できる。また、家を探すとか購入したいという話を聞いたときは、希望する家の金額や大きさ、農地の面積などの要望をお聞きして、それに見合った空き家や農地を一緒に見に行き紹介している。多分他の自治体さんではそこまでされてないと思う。でも人口がどんどん減っている市川町なので、その辺はとにかく親切に丁寧な対応に努めている。
委員	市川町というのは、都会から近いという良いロケーションにあると思うので、農業や農的暮らしをキーワードにして、移住促進策を進めることが一つの方法ではないかと思う。
委員	本校の新しい校制で、地域探究クラスというのを来年度起こすのだが、有機農業に興味を持つようなきっかけ作りに、有機農業体験に参加できるような機会があるかどうかお聞きしたい。
地域振興課長	国の方では、今有機農業で栽培されている農作物は 1%満たないが、2050 年には 25%まで引き上げたいと考えている。これからも引き続き、市川町の有機農業については進めていきたいと思っている。声をかけていただいたら、笠形オーガニックや牛尾さんを紹介させていただき、いろんな体験を組み込めるような形でサポートさせていただきたいと思う。
委員	先ほどの市川高校の地域探求クラスに関連して、有機農業もそうだが、中小企業での働き手がなかなかいない中で、働いている人と繋がって関わり

<p>委員</p>	<p>を持って楽しみを覚えてもらう、現場を見てもらうということは非常に大事だと思う。次につながっていくのではないかと思うので是非そういうこともお願いしたい。</p> <p>今ご指摘いただいた内容について、来年度生徒自身が自分の地元の企業について調べて、学年集会などで発表して地域の企業を知っていこうという取り組みを考えている。本校でも就職を希望する生徒も約半数いるが、高校生の離職率が高いということが問題になっている。たくさんの企業を知った上で、自分がどこに合うのかを自分で見極めさせるということが非常に大切。生徒と同時に保護者も巻き込んで企業研究をさせていきたいと思っており、親子でともに考え、その生徒に合う就職先を見つけてもらうという取り組みをしている。保護者の支援も非常に大切。挫折する生徒も結構多いので、離職率を低くするということも含めて、市川町に住んでいる生徒は市川町の企業研究、他市町の生徒はそれぞれの住んでいるところの企業研究をさせて、自分にどういう仕事が一番向いているのか、自分で見極めて就職させるようにしていきたいと考えている。またその時にはご協力をお願いしたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>商工会にもどんどん声かけていただいたら協力できると思うし、特に商工会の中でも青年部の若い人達と繋がっていただくと一番いいと思う。</p> <p>インターンシップは結構効果が高い。うちにも4月から県立農業の生徒が就職してくれるが、インターンシップで来て、本人がこちらを希望して対応させていただいた。やはり経験を積むということと、人と触れ合った中で自分の存在が見つかるということから、就活の流れよりもインターンシップの流れの方が定着率は高いのかなという気はする。企業等々もなかなか厳しい状況ではあるけれども、厳しい中で逆にしっかりした人材を欲しがっているので、いい流れになる可能性は高いと感じる。</p>
<p>委員</p>	<p>ゴルフの話が出ていたので、その流れでお話をさせていただきたい。市川町のゴルフまつり実行委員会に入らせていただき、また地域振興課が進めておられる移動式情報発信拠点車両についても、昨年11月に宝塚北サービスエリアに行って状況を見てきた。やはり結構な反応がある。3月27日に車両の出発式をして、3月29日から三木市でのゴルフ選手権大会に、初めてこちらから出向いて行ってPRする。町やアイアンのPRは、来年度以降こういう形で積極的にどんどん進めていっていただきたい。</p> <p>一方で支店の方から、アイアンヘッドの生産が厳しくなっているという話があった。市川町ではヘッドを仕入れて、それを削ってアイアンにされているが、元の業者が廃業されて供給が困難な状況が続くそうだという話が上がっている。せっきくいろんなところでPRして、その影響でゴルフクラブが売れるようになって、供給が滞るようであればそれが問題になってくる。業者、町、商工会が一体となって、早急に議論していただかないといけないと思う。</p> <p>それともう一点。ゴルフまつり実行委員会で、各小学校でのゴルフ体験をしているが、それが中学校、高校と続いていかない。前にも校長先生と話</p>

<p>地域振興課長</p>	<p>をさせていただいたが、高校で選手権とか試合に出るとかいうレベルではなく、社会人になって初めてゴルフをするのではなくて、小中高での経験を生かして、それを続けていけるような流れを作っていただけたらと思う。一つのネックとして、やはり小学校から中学校に入るとなくなってしまうので、その辺りの仕組みをもう少し考えていただければと思う。</p> <p>ご心配いただいていることに関して、市川町は軟鉄鍛造アイアンを売りとしているが、その鍛造の一番元の鉄の塊をたたく作業は姫路の業者がされていて、そこから仕入れて削ってほとんどの市川町のクラブは作られている。その姫路の業者が鍛造をやめられたので、材料をどう仕入れるか今問題になっている。数量が足りるのかという問題はあるが、町内の鍛造をしている事業者カバーをしていただくという話にもなっている。ゴルフまつり実行委員会があることによって、これまでなかった事業者同士の連携も生まれてきている。それを活かして、良い技術があるのに材料が追いつかないというようなことにならないようにサポートしていきたいと思っている。</p> <p>ゴルフ体験については、今は小学校6年生にゴルフの体験をしてもらい、来年度からは中学校でも体験ができないかと考えている。市川高校で、もしゴルフ体験の授業時間枠を取っていただいたら、ネットや資材を持って行って、役場の職員や町内の事業所さんも協力する。市川高校に通われている生徒さんには是非、市川町の地場産業なので体験していただけたらと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>3番の企画政策課の分で、リフレッシュパーク市川の試打施設を活用したイベントとある。今はそれほど活用されているという状況ではないと思う。立地的になかなか利用しにくい場所にあるが、これも学校の方に貸し出すとか、イベント等で使っていただくとか、積極的に活用していただかないといい施設なのにもったいないと思う。学校関係含めて活用の方法を考えていただけたらと思う。</p>
<p>委員 地域振興課長</p>	<p>三木市のようにゴルフの盛んな市では、中学校にゴルフ部はあるのか。県内では、ゴルフ部のある高校は何ヶ所かあったが、中学校はなかったと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>多分どの中学校も学校規模がどんどん縮小している傾向にあり、高校でも同じように学校規模が縮小している。以前は1学年10何クラスあったが、今は全体で16クラスということで、生徒数が減ると教員数も減って、部活動の維持が現実問題非常に厳しい。これは中学校現場でも同じで、もっと厳しい現状があると思う。</p> <p>野球部かサッカー部かどちらを残すかというような中学校も多く、本校でもサッカー部を諦めざるを得なかった。教員数が少なくなると、その数で部活を回さないといけないし、今は働き方改革も入る中で、部活動の維持というのは非常に厳しい。多分今後は公立中学校・小学校にも働き方改革が入ってくると思うので、特に土日の部活動移行は本当に大きな問題として中学校現場は考えていると思う。その受け皿に私学の本校がなれるか</p>

	<p> というと、本校も働き方改革もあって難しい。そういう面では、地域でボランティア的にしてもらえる受け皿があれば、先ほどのゴルフ部についても本校の生徒を紹介して、そこで興味を持った生徒がゴルフを続けるということは可能だと思う。本校の中でも、せっかく市川町にある市川高校なので、ゴルフ部をもう1度ということを検討したが、生徒数が増えるわけではないので厳しいという話になった。近隣の公立高校でも統合が発表されている。夢前高校は統合されるが、現在1学年2クラス、高校全体で6クラスしかない。神崎高校はまだ統合は言われていないが、1学年2クラスになっている。全校6クラスの中で部活動を維持するのは本当に大変。福崎と夢前が統合するというので、倍率を見ていたが厳しい。この近隣は全部1倍を切っている状態で、本校は併願生も過去は一定割合来ていたが、もう併願生はほとんど見込めない。最初から市川高校1本の専願で募集をして、これから戦っていかないといけないという厳しい現状がある。そういう中で部活動の維持をするなら、やはり統合してある程度の学校規模がないと難しいと思う。高校でもそういう現状があるということはお知りおきいただきたい。 </p>
<p>委員長</p>	<p> 人口減少は思っている以上に進んでいる。商工会の現状で言うと、60代、70代の会員が全体の6割を超えており、おそらく10年後には今の会員数の4割になる。商工会を維持できるかどうかという段階まで陥っていくというのが目に見えている。さらに、廃業率が高いということは4割を切っていくということ。新規開業で新規会員になれる方は農業系組合がほとんどで、それ以外の商業・工業はほとんどない。たまたまコロナの補助金目当てで入っては来られてはいるが、町外の方が多く、将来この方達は絶対やめられる。商工会自体を見ても、商工業そのものが10年後にはほとんど維持できないだろうと思っている。新規開業の補助金は結構あるが、跡継ぎの補助金はほとんどない。ここも一つのネックで、国の補助金がないのであれば町単独でどうしていくかということも考えないといけない。一定規模のところでは利益の出ているところには跡継ぎはあるが、そうでないところは逆に親が跡を継ぐな、と言うような状況。今の段階で市川町の高齢化率は4割ちょっとだが、商工業については6割を超えている現状なので、スピードはもっと早いと捉えていかなければならない。 </p>
<p>委員</p>	<p> 今農業が厳しい中で、担い手不足は明らかに感じている。営農組合や担い手の方がリタイアされている。一番困っているのは瀬加地区。それと甘地地区の甘地地内。甘地区のほ場整備でいいほ場ができていのに営農組合での組織活動ができていないという現状。また、今神崎でも担い手づくりをしていただいているが、誰がどのようにこの5年、10年を見守っていくのか。後継者をいかにその地域で作っていくか、守っていくかという問題を、もう少し地元の方々と共に考えていくべきではないか。様々な補助金のメニューを作ってください我々は助かっているが、いかに担い手を育てていくか、守っていくかも議論していけたらと思う。 </p>
<p>地域振興課長</p>	<p>市川町内の農地をどう守っていくかというのは今大きな問題になってい</p>

<p>委員</p>	<p>る。実際に今年度、大規模農家さんが3名やめられた。しかしながら農地は減らない。市川町には認定農家さんと営農組合等を含めて46ほどあるが、営農組合の組織で法人化されているところは4件しかない。それ以外のところは集落営農で、集落の方が出て自分たちでされているが、法人化されてないところは何年か後に解散するという話も聞こえてくる。今のところ営農組合を新たに法人化するような話も出ていない。今後農地をどう守っていくかは、非常に大きな問題になってきている。農家さんがいらっしゃるから農地が荒れずに守っていただけているわけで、今の農家さんを何とかして守りたいという気持ちはある。農地を持っている方でも、任せているから草刈りも水の管理も何もしない方が大半。非農家の方にも現状を理解していただかないといけない。補助金についても、国や県の補助金を取りにいくよう努めているが限りもある。先日の神戸新聞によると、神戸町で農業に対して補助を出す新しいメニューを考えられていた。だから今後、町長、副町長にまだ話していないが、町独自で農家さんに対して何か補助をできないかと考えている。町としても今後対策を早急に考えていかないといけないと思う。</p> <p>委員 スマートアグリが最近言われており、プログラミングをすることで初心者でも使いやすい機械が最近開発されているので、そういうものに投資をするのはどうか。</p>
<p>地域振興課長</p>	<p>姫路市香寺町が町内で一つの営農組合で、会社組織のようにされている。市川町でもそれができればいいが、例えば集落の中で2つ3つの営農組合に分かれているところで、高齢化で人がいなくなって農業ができないと言われるのに、私たちが集落に入って行って営農組合を一つにすることを提案しても、それはできないと言われる。今までの集落ごとの考え方や特性などいろんなことがあるので、なかなか一つにするのも難しい。町から強制的にできるものではないし、皆さんがそうしようという思いにならないとできない。</p> <p>それと今言われたスマート農業、初心者の方でも使えるという謳い文句でいい機械ができていますが、実際にはそう簡単にはいかない。また、使いこなすためには相当大きな農地でないと。今は場整備を進めている屋形はとても大きく、全ての田んぼがそうなるとう率的になるかもしれないが、今の農地で自動化を進めるのは難しい。田んぼから田んぼに移るのは自動では行けないので。</p>
<p>委員</p>	<p>委員 スマート農業に関しては莫大な費用かかる。1台2,000万、3,000万は軽くなるので、そのもとを取るのが難しい。やはり人の力を借りないと無理だというのが一つ。あとは水管理と畦畔管理。先進地の加西市の玉野営農組合では完全自動化されている。ゴミがつまらない水管理をされていて、携帯電話で操作ができる。ただ、その機器を1台付けるのに10万かかるので、そろえるとかかなり金額は大きい。それほどお金をかけないとIT化はできない。さらに今言われたように、大きい面積でないと効率的にならない。ドローンもいいが、なかなか隅々までいけない。将来的には、何とか今の</p>

委員	面積の倍はしたいという思いで頑張っているのですが、できれば町も町民の方も一致団結して、地域の農業に目を向けていただきたいと思います。
委員	お金がかかる話が出ているが、私は補助金を出しても農地は守れないと思っている。なぜかというと、農業をする人が年を取っていなくなってしまうから。そのためにはやはり儲かる農業でないと。農業が儲かるのであれば、都会の人でも農業をしようという人が増えて、人が来るかもしれない。身の回りの人を集めようとしてもなかなか難しいのではないかと思います。
委員長	私も農業というカテゴリの中で働いている。ずっと黒字決算となっていて、一応儲かっているということになるが、儲かっている農業をすると農林水産事務所に行っても関係ないと言われる。儲からないのが日本の行政の考える農業。だから、私は長く農業をしているが、県の農林事務所の人との繋がりほとんどない。儲けると商売だから銀行や商工会など他の機関に行ってください、ということになる。また、いろんな企業の方が、米麦以外の畑作で利益が出ないかと相談に来られるが、基本的に水がはけないように基盤整備した田んぼで野菜などを作ったとしても、まともに出荷できるものはなかなかできない。ビニールハウスや温室を建てようとする、最低4~5,000万かけないと農業を始められない。農業の問題は厳しいと思うが、住民との接点が多分農業だけだと接点にならないので、これは環境問題として捉えていくほうが良いと思っている。
委員	農業とは違う話になるが、旧鶴居中学校の跡地利用について、お金をかけずに売却したいという気持ちはよく分かるが、この1区画でも民間の協力を得ながら、住宅地にすることは不可能なのか。私自身住んでいるのは加西市で勤務が瀬加という、どちらかというと交通機関が不便なエリア。最初の人口ビジョンでは鶴居地区も人口が減っているということで、私からするとJR沿線にそんな土地があるのであれば魅力的なのではないかと感じる。なかなか難しい問題だと思うが、社会増を目指すのであればそういったことを考える余地はないのかなと感じた。
事務局	この場所については、不動産業者が住宅メーカーなどに宅地分譲地として可能性があるかどうか、聞いてみようということにはなっている。分譲地で家が建つというのはベストなことだと思う。
副委員長	6番のふるさと納税の寄附金の使途として、市川高校支援を目的とした寄附金を設けていただいている。令和4年度ではどれくらい集まったのか。
委員	4月1日から12月31日までで、2,759,000円と聞いている。今年目標額を100万円ということで設定していたので、それを達成できて喜んでいる。寄附金を市川高校の使途として新たに設けていただき、このような補助をいただくということは本当にありがたい。今年度は在校生の保護者を中心に呼びかけており、また次年度以降は卒業生にもPRしていきたいと考えている。また来年度の補助額を少し引き上げていただいたと聞いているので、引き続きお願いしたいと思っている。併せて、その補助額の割合が、姫路市は私立高校でも結構高い割合で補助されていたと聞いており、本校

<p>委員</p> <p>地域振興課長</p>	<p>もそこに近づくよう今後お願いしたいと考えているので、引き続きご支援いただきたい。</p> <p>ゴルフの関係で、先ほど材料を供給する工場がなくなって困っているということだったが、業者にはたくさん磨く専門の人たちがいらっしゃる。その人たちの後継者が、農業と同じように育っていないように思うが。</p> <p>ゴルフの事業者には、家族経営されているところとそうでないところがあって、家族経営でされているところは後継者がいるが、そうではないところは後継者や職人の技術の継承が難しくなっている。一人前の職人になろうとすると最低でも10年必要だと聞いている。ゴルフクラブを製造するのに、工程を分けて職人がいる。例えば削るのに5工程、5名で行っている。1人が新型コロナに感染して1週間休まれたら止まってしまう。かと言って、1番から5番の工程を何年か交代で順繰りに回して、誰もが1番から5番ができるようになるのは現実難しいらしい。ただでさえ生産が追いつかないのに、さらにストップがかかってしまう。資材の供給だけではなく、後継者育成ということはとても大切だということは認識しており、町としても後継者、事業継承などの補助金メニューを活用しながらサポートさせていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>25番に、令和4・5年度の認定こども園の1月現在の入園見込み者数が書いてあるが、この人数は町外からの園児も含めた人数だと思う。近隣の町の子どもたちが町内の3つのこども園に通っていて、特に屋形こども園に多い。私が知る限り、神河町では今までは4歳・5歳の幼稚園教育のみのため、3歳の子が市川町へ大勢来ているということだったが、空き教室がたくさんあるため、この4月からは3歳児教育を希望する方のために、寺前幼稚園、神崎幼稚園で15名の園児のみを預かるという方針になったらしい。子育て会議によると、令和4年度には、町外から54名の子どもが市川町に来ており、令和5年度には45名の子どもが希望している。平成31年4月にこの3園が新しくなって本当に素敵な園舎で子どもたちを預かれるようになった。定員数も東こども園は170名、西こども園は90名、屋形が80名ということだが、現在の人数からすると今後定員数の見直しが必要になってくると思う。定員の見直しと各年齢別の職員数については、今は目に見えない障害を持つ子ども達もいるし、いろんなところで幼児虐待事件があるので、定員数プラスそういう目に見えない障害の子どものもとも考えながら、職員の配置をしていただかないと、保育士自体にストレスがたまる。あつてはならないことがないように、職員の見直しをしていただきたいと思う。学童保育も、特に長期休みのときは利用人数も多いと聞くので、預かる子どもの人数プラスどれだけの職員を置くのか、現状を把握していただいて、絶対に死角のないように努めてほしい。私はよく講演会で、保護者の方に対して子どもの手を離しても目を離してはいけないということ話す。さらに、子育ては時間も手間もかかるが、その時間と手間をかけることで愛情を注ぐのだということ話をしている。これはこども園においても学童においてもそうだと思うので、子どもに対する職員の人数など</p>

	<p>も細かく把握していただきたい。</p> <p>それともう 1 点、通園バスの死亡事故があったが、私自身、現場にいたときからすると考えられないようなこと。バスには必ず添乗員がいて、運転手さんも添乗員さんも、最後に確認しないのが不思議。令和 5 年 4 月から、国の補助金で市川町内の通園バスにそういう安全装置をつけるということも聞いているが、親たちは安心安全な場所として預けているので、事故のないように今後ともよろしくお願ひしたい。</p>
副町長	<p>園児数に対する職員数、これは当然基準があつてそれは確保しているところだが、実際に保育士の資格のある方を募集してもなかなか応募がないという現状もある。基準を満たして職員数を配置していくことは当然のことなので、それは取り組んでいく。町外から入ってくる園児数が多い、ということについては、数字は調べていないが、市川町から逆に町外の施設へ行っている子どもさんもある。</p>
委員 副町長	<p>それはとても減っている。</p> <p>差し引きして入ってくる方が多いという結果だと思うが、そのことについては当然配慮していかなければいけない。それと、目に見えないような障害のお子さんの対応については、教育委員会の方で十分考えていると思う。バスの安全安心についても、これはあの事故以来徹底して取り組んでいると聞いているし、実際にやっていると思う。国の補助等活用してやっていきたいと思う。いろいろご指摘いただいたことについては、今後の参考に教育委員会にも伝えておきたい。</p>
町長 委員長	<p>バスについては来年安全装置を設置する。</p> <p>出生数は 40 名前後がずっと続いている中で、町内全域の小学校の入学生が 1 クラスに満たないような状況が来ている。今後増える見込みもない中で、4 小学校が維持できるのか、中学校が維持できるのかということ。考えられるのは、義務教育学校を早く設置して小中一貫の学校ということになる。そうすると今度は通学の問題も出てくる。エリアの問題、コストの問題等々絡んでくると思うが、教育関係についてずっとこの 8 年間、岩見町長がしてこられた中で、どういうふうに感じておられるのか、お聞かせ願えればと思う。</p>
町長	<p>教育・子育てには力入れたいということで、来年度予算についても 62 億 7000 万ほどで、教育環境を整えるのに 16.2%の教育予算を組んでいる。これは率としてはかなり高いと思う。これから生徒数が減っていく中でどうするのかという問題については、きちっと議論はしていないが、中学校は今の形で統合して、これからは生徒数が減っていくというのは目に見えている。出生数も 40 人前後が続いており、小学校も 2 クラスが維持できるかどうかという状況になっていく中で、4 小学校をずっとそのまま置いておくのかと言えば、そうはいかない時代が来ると思っている。小学校の統合は、中学校を統合するのとは違う難しさがある。先ほど鶴居や瀬加の人口が減っているということで、その原因としては、例えば鶴居の場合で言うと、店がない、あるいは道が狭い、東西の道がないとかという問題もある</p>

	<p>とは思う。他にどんな問題があるか分からないが、人口が減っている中で、教育委員会で検討は始めている。一つは、甘地・鶴居を一つ、川辺・瀬加を一つの学校にしながら、さらに1校にしていくということ。まだいつ頃を目途にということまでは決めていないが、そうなったときには市川中学校の校舎を今の場所で建て替えることもできないだろうし、そういうことを考えると、将来的には小中一貫校を作るべきだと教育委員会には申し上げている。期限までは申し上げられないが、そういう方向で考えるべきだと考えている。</p>
<p>委員長</p>	<p>いずれにしても協議を急がないことには、遅れた状況になってしまう。市川高校の先生もいらっしゃるが、今度は生徒の奪い合いということになってくる。その中で時代遅れで進んでいると、取り返しのつかない事態に陥る可能性が高い。できるだけスピード感を持ってやってほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>すぐに解決方法はないだろうが、本校で今、生徒募集の一つの方策として考えているのはeスポーツという分野。3年前にeスポーツ大会を校内で開こうとしたときは、教員の反対で開けなかったが、その後1年間かけて教員の理解を進め、2年前に校内でのeスポーツ大会を行った。このeスポーツというものは、ゲームを複数人のチームとするのだが、校内でするとものすごい盛り上がりになった。新型コロナの影響もあって、普段制限されている中でeスポーツ大会をして、今までスポットライトを浴びていなかった生徒で得意な生徒もいて、その生徒をみんなで応援してスポットライトを浴びた。クラス代表を出して、学年代表を出して、市川高校でナンバーワンを決定したのだが、最後は本当に大盛り上がりになった。そこから生徒たちが自分達でそのeスポーツ大会を企画・運営しようという流れになり、定期的に校内でそういうeスポーツ大会を開くようになった。今コロナ禍において、不登校や発達特性を持った生徒も結構多い中で、そういった分野に対しては長けている生徒もいる。学校でゲームを認めてくれるとは思わなかったというような生徒の感想も多く、多分他の公立ではなかなかそこまではできないだろうと思う。このeスポーツ大会を体育館でするには、技術的なハードルが高く、幸いそういうことに長けた教員が本校にいたからできたのであって、どこの学校でもできることではない。この前神戸新聞の中に、丹波市にある氷上西高校、こども1学年1クラス、学校全体で3クラスの高校だが、丹波市がeスポーツ部を創部するために300万円の交付金を出したという記事が出ていた。本校はもう既に情報メディア部にeスポーツ部門があるので、そのことをお願いするわけではないが、これをきっかけに生徒募集に繋げていこうというような流れがあり、市川町文化センターで、そういうことに興味のある中学生に集まってもらって大会をしようかということは、今構想として考えているところ。いろんなきっかけによって高校に興味を持ってもらい、自分が何か楽しみを持ちながら高校生活を送るというのは非常に大切なことで、単に勉強しに行くだけではなくて、自分もeスポーツなり何かをやれるという、そういう働きかけは大事だなということを改めて考えている。</p>

委員長	私学系はそういう動きにどんどんなってきた。地域での体験型学習というのはかなり強く前面に出てきている中で、公立学校も頭を切り替えていかないとだめな気はする。
委員	2年ほど前に県との意見交換会に参加させていただいて驚いたのが、市川町にお住まいの方の60%~50%の方は市川町に魅力を感じるという統計があって、半分近くの方がどうでもいい、そこに意識が向いてない、市川町を良くしようという意識がない、ということが大きな問題だと感じた。新たに人を呼び込んでも、その地域に住んでいる人が幸福でないと定着しないのではないかと思う。だからその意識をどう上げていくことができるか、答えがあるわけではないが、こんな新しいことをしよう、という若い人を盛り上げていくのは大切だと感じている。
委員長	私が戦略会議委員長を長くしてきた中で感じるのは、戦略会議の中で我々が話していて、行政の中でも別バージョンでやられているわけだが、住民との対話は一切なく今まで来ているという現状。来年度も続けていくのであれば、住民とのキャッチボールができるような場面もあっていいのかなと思う。役場がこのようなことを考えているということは、多分誰も知らないし興味を持っていないと思う。行政がすると、強制的に自治会にお願いして集める形になるかとは思いますが、できるだけいろんな年代の方に、戦略会議で議論していることを知ってもらうことが大事だと思う。行政の考えていることが見えないから、興味がないというところに繋がっているような気がする。
委員	行政が、町民の事業などの応援をするという架け橋も必要なのかなと思う。今は別物という印象を受ける。行政にもこういうビジネスがあるということを出していただいて、人がその情報を得られるという状態も大切。私は引っ越してきて、どこにどんな店があるのかさえも分からない、ネットを見てもお店のリストが少なかったり登録されていなかったりしたので、市川町にどんなものがあるのか、見える形で出していくことも非常に大切だと思う。
委員長	では一応私の担っている時間は来たので、これで締めさせていただいて事務局にマイクを返したい。
企画政策課長 副委員長	それでは閉会にあたり、多田副委員長よりご挨拶をお願いしたい。 (閉会あいさつ)